

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	博物館概論				授業形態	講義			
科目コード	710100	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	安井 雄一郎							ICT活 用	
授業概要	<p>博物館とは、人文学、自然科学などすべての学問を含むヒトの歴史から自然史までの全ての事象を、いくつかの分野に切り分け、それぞれの分野において専属の学芸員を置き、当該分野で設定されたテーマに即して調査研究、収集保管、公開（展示・展覧会）等の活動をおこなうとともに、それらの成果を時代の記録として後世に伝えていく専門施設のことを言う。またそこで働く専門職を学芸員という。しかし、博物館と一言で言うその有り様は、人文学系から自然科学系まできわめて広く且つ多様である。またそこで活動する学芸員も、人文系博物館と自然史系博物館の学芸員では相手にする資料もその方法論もこれまた多様である。</p> <p>そこで本講では、それら多様な博物館類から私が関わった人文系博物館のなかの美術系博物館、すなわち美術館を取り上げ、学芸員としてつとめた地方美術館での32年間の実体験を踏まえながら調査研究・収集保管・展示公開という博物館の三大要件の美術博物館での実践例をはじめ、組織、予算、事務分掌等々の具体的解説を通して美術博物館運営の年間活動の一端などを概説する。人文学系と自然科学系で専門領域は異なるが、これから学芸員をめざす本学の学生諸氏にとって何らかの役にたてば幸いである。</p>								
関連する科目									
授業の方法と進め方	主に講義形式で授業を進める。講義内容の理解を助ける補助手段としてスライド、映像資料などを利用する。								
授業計画【第1回】	I部 美術館（美術博物館）とは？ ①美術館（美術博物館）とは？								
授業計画【第2回】	②はじめ学芸員は「雑芸員」だった～1970～80年代を振り返る～								
授業計画【第3回】	③行政改革の新しい波～指定管理者制度など～								
授業計画【第4回】	II部 ソフト・ハード両面からみる美術館（美術博物館） ④建物 警備・搬出入口・展示室・収蔵庫ほか								
授業計画【第5回】	⑤運営 組織・事務分掌・予算・各種委員会ほか								
授業計画【第6回】	⑥学芸員 活動の三大要素（調査研究・収集保管・展示公開）ほか								
授業計画【第7回】	⑦展覧会 種類（自主企画展・巡回展など）・会場設営・空調管理・資料借用ほか								
授業計画【第8回】	III部 教養、たしなみとしての美術、美術史 ⑧基本中の基本（1）モチーフ、テーマ、フォルム、スタイル／（2）図像学、アトリビュート、引用								
授業計画【第9回】	⑨絵って何？号数表、「絵」の成り立ち、「絵」の用途、絵はなにを描いてきた？								
授業計画【第10回】	⑩文化財とは？ 観光利用をめぐる近年起きた事件を考える								
授業計画【第11回】	⑪絵画の近代を作った西洋絵画（1）人物画とヨーロッパ絵画～日本の近代美術理解のために～								

授業計画 【第12回】	⑫絵画の近代を作った西洋絵画 (2) 19世紀フランス絵画の現在～変容する美術史像～
授業計画 【第13回】	IV部 学芸員の記録～美術博物館の学芸員として誰 (美術家) をどう顕彰 (検証) してきたか? その一例～ ⑬洋画家・香月泰男 (1) シベリア・シリーズと香月泰男
授業計画 【第14回】	⑭洋画家・香月泰男 (2) 検証 シベリア・シリーズの成立経緯
授業計画 【第15回】	⑮洋画家・香月泰男 (3) 没後半世紀の香月泰男のいま
授業の到達目標	①博物館とは何をめざす専門施設なのか理解を深める。 ②博物館ではたらく学芸員について理解を深める。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	各授業に対応して特定の教科書、参考書があるわけではないので、授業のタイトルから読み取れるキーワードを中心にその周辺を事前に調べておく。
授業時間外の学習 【復習】	受講後の心がけとして、 ①美術館・博物館の活動内容をイメージ的ではなく具体的・実際に理解するよう努める。 ②美術館・博物館などの施設に出かけて本物 (実物) を見ることを実践する。 ③有形・無形文化財や歴史的建造物・遺跡などに接することを通し、歴史を俯瞰する知的想像力を涵養するべく努める。
課題に対する フィードバック	博物館 (博物館の種類は問いません。美術系、歴史系、自然史系等々すべて可) を訪ね、訪問時に開催中の企画展、常設展どちらでもいいので当該館で見学した展覧会について、テーマ設定の仕方、テーマに即した資料の見せ方 (展示の仕方) などを、授業で取り上げた展覧会論に照らし合わせて自分なりに評価し、その概要をレポートにまとめる (これを大レポートのためのテーマとする。学期終了時に提出のこと。2000字以内にまとめる。)。なお、博物館はかならずしも大学から近隣の博物館施設である必要はない。②小レポートについてはテーマ等、授業のおりお知らせします。
評価方法・基準	小レポート30点、大レポート70点で採点。その総合点を成績とする。
テキスト	とくにありません。
参考書	直接の参考書ではないが、学芸員の調査研究の成果の一例として、 ①安井ほか共著『香月泰男画集 生命 (いのち) の讃歌』(平成16年・小学館) ②山口県立美術館監修『香月泰男 シベリア画文集』(平成16年・中国新聞社) ③安井雄一郎『凍土の断層 香月泰男 (シベリア・シリーズ) を読み解く』(平成29年・東京美術) ④安井雄一郎『評伝 飄逸の画家 松田正平』(令和2年・みすず書房) ※購入までする必要はないが、学芸員には本を書く仕事もあるという一例として図書館等で目を通してもらうことを勧める。とくに③の『凍土の断層』は当該学芸員のライフワークの集大成の書。こちらは一読を勧める。